

天白まちづくり会報

(第5号)

天白まちづくり協議会（天白公民館内）

平成22年9月1日発行

あつい夏 第2回天白夏まつりも最高潮！

第2回天白夏まつり

実施される

7月18日（日）ハートフルみくもイベント広場において、1,900名余りの地域の人たちに参加していただき、盛大に開催されました。

午後4時からの開会式には伊藤末治会長の開会挨拶に続き、来賓として出席いただいた山中光茂松阪市長からご祝辞をいただき華を添えていただきました。

引き続き全国各地のイベントで活躍している「高虎太鼓」のメンバーによる高度なバチさばきに感動し、更に県内の若手2バンドによる野外ライブから、全国大会出場経験のある「志舞」の皆様による「よさこい」と続き、会場を大いに盛り上げていただきました。また昨年に引き続き、子供を対象とした金魚すくい・輪投げと、今回初めてのスイカ割り・子供花火大会には来場していた子供達の全てが参加する大人気で、順番待ちの長い列ができました。

「つばさの会」と「ええやん祭



山中松阪市長による来賓挨拶



伊藤会長による開会挨拶

り実行委員会」が出店した屋台では、焼きそば・伊勢うどん・かき氷などが特に人気で多くの方々に購入していただき、また昨年に続き本年も陶磁器・ガラス製品・タオルケット・書籍などを約20名の方々からのご厚意で提供いただいた100点余りを、100円から500円の値段でリサイクルバザーとして販売しましたが、早々と完売になりました。

ご提供いただいた皆様に心より感謝いたします。

また本年フリーマーケットの出店を募集したところ3店舗で野菜・食料品・衣類・食器・玩具などの販売が行われ、たくさんの方が来店されました。

まつりの最後は、1等デジタルメ、2等自転車などの当たる大抽選会が1,000名程の参加者が集まる中、実施され番号が読み上げられる度にあちこちで歓声が上がりました。当選された方おめでとうございました。

今回の夏まつりのイベント中には、口蹄疫で苦しんでいる畜



産農家の皆様を少しでも応援できればと、チャリティー活動を実施し、集まった浄財8,153円を宮崎県共同募金会に送りました。ご協力いただいた皆様方ありがとうございます。

最後に今回の夏まつり「高虎太鼓」「よさこい」等の出演交渉や、伊勢うどん・かき氷等5店舗の出店で集客に貢献いただきました「ええやん祭り実行委員会」の皆様、また夏まつり実行委員、関係各位に心より感謝いたします。ありがとうございます。

来年も実施を予定していますので、地域住民の皆さん楽しみにお待ちください。

写真で振り返る「第2回 天白夏まつり」コーナー



金魚さん。まってよ～



安いから買って行ってよ～



おいしそうなお匂いに誘われて！



「志舞」の皆さんによる よさこい



夏の風物詩と言えば「花火」



熱い「ハート」で熱唱！！



おいしい「焼き鳥」いかがですか～。



勇壮な「高虎太鼓」の演技



ん？



次に当たるのは「ほく」・「わたし」かなあ



振興局員との共同作業風景

地域を美しく「天白クリーン作戦」が実施されました
6月13日（日）環境美化部（森嶋宏部長）の担当事業である「天白クリーン作戦」を自治会「天白クリーン作戦」を自治会の全面的な協力で実施しました。

クリーン作戦は昨年につき2回目で、前年度同様地域振興局の職員80名の方々も各自治会に分散して参加していただき、総勢350名余りが道路や水路に落ちているゴミを燃えるごみ燃えないゴミ・危険物に分類して集めていただきました。

参加していただきました皆様大変ありがとうございました。

当協議会では、地域の住環境を向上させる為、計画的に実施いたしますので、今後ともよろしくご協力をお願いします。

各協議会の概要と活動状況、活動を通じて地域がどのように変化したかを話し合いました。

当地区ではクリーン作戦に市職員80名が参加、住民と合わせ350人で協働作業ができた事がよかった。近年の住宅開発に伴い移り住んだ若い人にとの協働に協議会に参加してもらうかが今後の課題であることを報告、行政には協議会の必要性等を強力にPRし、未設立地区の早期設立を要望しました。

8月4日（水）中川コミュニティセンターにて、新しく就任された小林副市長を囲み、嬉野中川・中郷・天白の三地区のまちづくり協議会役員との懇談会が開催されました。

新副市長との懇談会を開催



新副市長との懇談会

このコーナーでは、天白地区に伝わる伝統芸能・行事を紹介していきます。

第2回目は、「曾原のかんこ踊り」をご紹介します。

「曾原のかんこ踊り」

8月14日夕方から15日の早朝にかけて曾原地区では、江戸時代から郷土の伝統行事としてのかんこ踊りが大切に引き継がれています。

かんこ踊りは、死者の供養の踊り昔の出来事を伝える踊り、昔の人の娯楽の踊り、豊作祈願の踊りなどがあり、踊りの衣装は紺木綿の上下に脚絆を巻き、紺足袋にわらじを履いて太鼓を胸に吊るし、頭には雉の羽を縫いつけた被り物をつけて踊ります。

1番踊りは小学校5年生4人が化粧をして踊り、2番踊りは6年生、3番から中学生、高校生と踊り手が替わり、大学生から社会人とほぼ年齢順に12番くらいまで踊ります。

練習は曾原かんこ踊り保存会（林秋好会長・瀬古一彰実行委員長）の指導で8月1日から踊りの前日まで



1番踊りを踊る小学生

行っており、1番踊りは午後5時ごろから母親達が入念に化粧した5年生4人が、法性寺へ世古入り（死に際に仏様にお祈りすると、仏様のお力で舟が現れて極楽浄土の世界に、乗せていただけという内容）で入場し、お寺踊りと隅田川を踊った後、西光寺まで太鼓をたたきながら行進し、同じ踊りを踊って法性寺に戻ります。

その後6年生による2番踊りから中学生へと踊り手が替わり、保存会の中心メンバーが踊り終えた午前1時ごろ、元気のよい若手に

よる雉子踊りで法性寺境内から飛び出し里中を踊り回って境内に戻り、再び1番踊りによる神世古踊りで終了します。

踊りの種類は世古入りからお寺踊り・隅田川・念仏・夜討ち・梅若・花見など20種類あり、数人の笛と音頭の歌声に合わせて踊り踊りの種類により踊り手の廻りを浴衣姿の女性や年配の人達によるうちわ踊りで華を添えます。

このような郷土の伝統文化が熱意ある保存会の方々の努力によりいつまでも伝承されることを願っています。



公会所での練習風景

※次回は、曾原新田の「虫送り」をご紹介します。

【編集後記】

この会報が各家庭に届けられる頃には、この暑さも多少やわらいでいるでしょうか？

協議会の最大イベント「夏まつり」も暑い日でしたが、盛況のうちに無事終了。今回は特に若い世代の方の協力もあり昨年に比べると数段パワーアップした感じが十二分に伝わってきました。

今後いろいろなイベント等もありますが、世代の壁を越えて、天白地区がより住みよい地域になるように皆様のご協力をお願いいたします。

編集委員一同